

社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義

——學生の意識分析との關連において——

村上尚三郎

一、大學教養課程に對する考察

1 その批判的見解をめぐつて

今日、大學教育の中にあつて、一般教育がとかく批判の對象になつてゐることは既に周知の事實である。特に専門教育と區別して、大學教育に「二つの顔」があるといわれたり、とりわけ高校教育の「二番煎じ」、「焼き直し」等、ありがたくない汚名まできせられている。

「高校の後期から大學の前期——いまの『一般教育』課程のなかの大學生たち——にかけての年齢の青年たちは、目指す大學へ向けての入試準備のために、それこそ小學校以來、夜の目も寝ずに一家總動員で、非人間的な受験のロボットに仕立てあげられ、いつさいの、その年齢の青年たちの内心の欲求は押えられてしまふ。そうした環境に隱忍して受験要領を上手に身につけて入試を突破するのが、昨今秀才とよばれる青年なのであるから、明らかにいえることは二つある。」⁽¹⁾として大河内一男氏は自我を失ひ、個性尊嚴に無自覺な、人間性開眼からほど遠い若者としての大學生、そして、そのために彼らの大部分は青年としての純真さとエネルギーを失つてしまつてゐる二點を指

摘する。

「しかも新制大學における最初の『一般教育』の程度とその雰囲気とは、おそらくこの優秀な若ものたちが内心描いていたであろう『大學らしき』とは似ても似つかぬものである場合が多い。大學における學問とはどんなものか、あらかた入試の豫備校化してしまつたいまの高校と違つて、大學は、自分たちに何をあたえてくれるのだろうか、教授はどんな學問的感激を自分にあたえてくれるのだろうか、そうした青年たちの期待にいまの『一般教育』は答えることができないでいる。大學の初級二カ年に『一般教育』とよばれるものが高校教育の連續のような形で配置されていることに、新制大學の制度上の誤りがあるのだと思う。大學生が入學したとたんに、大學『當局』に對して反發し、しかも彼等が多くは政治的に無色の學生であるのは、こうしたところに原因がひそんでいる。」⁽²⁾のであるが、ここで見られる新制大學制度上の誤謬は歴史的に回顧すると、「農地改革とは違つて、教育改革はその成功が必ずしも明らかではない。占領軍は理想に燃えて教育改革を行ない、その理想主義はかなり多くの日本人の共感を呼びおこしたけれども、改革は日本の實情に合致しないところもあつたからである。占領軍は教育制度の改革のため、一九四六年（昭和二十一年）三月に教育使節團を日本に送り、やがてこの使節團は、人權尊重と教育の機會均等を中心原則とする勸告を行なつた。それに呼應して、同年八月、日本政府は教育刷新委員會をつくり、この勸告案を參考にして教育の民主化についての審議を始めた。この教育刷新委員會を構成した委員たちは、概して勸告案を強く支持し、その年の終わりには六年の初等教育につづく三年の中學校を義務制とすることに定め、しかも、それを次の年から實施することを答申した。（略）しかし、それは、當時の財政事情の窮迫と戦災による多數の校舎の焼失という實情を考えると、現實性を考慮しない計畫のように思われた。われわれ政府關係者はこれを不可能

と考え、中學校の義務制については三年間に、六・三・三・四制全體については、十年くらいの間に實施する意圖であつた。六・三制には莫大な經費がある。戰前日本の最盛期ですら、六年の義務教育がやつとのことであつた。戰時中、八年の義務教育制を法律の紙の上では定めたが、實際はできなかったのである。それを敗戦後九年の義務教育制にするとして、いつたい財政のうえからみて、これはできることなのだろうか。(略)ところが二十二年から、三年の間に毎年毎年、小、中、高、大學と新制度に切り換えていけというのが、總司令部の態度だから、當局者は弱つたわけである。(3) というように、その國の實情を無視した教育改革の動機において既に見ることができるのである。元來、「教育という人間の營みは、いつの時代にも、いかなる國においても、その國の歴史的・社會的條件と、その國民の個性的な精神的風土とによつて形造られていくのである。」(4) にもかかわらず、すでにみたように、「六・三・三・四の現行制度は、戰後アメリカ占領軍によつて押しつけられたものである。アメリカの大學はヨーロッパの大學とちがつて、人文主義的教養の傳統をもたない。その弱點への反省が、彼らを一般教育への重視に向かわせた。一方日本の舊教育制度は、ドイツの影響が強く、舊制高等學校は多くの哲學青年を生んだ。そこにいきなりアメリカ風の、一般教育を強制されたのだから、(略)結局過去の長所は失われ、かといつてアメリカ風にもならず、中途半端な形の教養課程がつくられてきた。」(5) わけである。したがつて、「教科内容については、現行の人文・社會・自然の別にとらわれることなく、各専攻課程の教育を補完し、廣い教養を身につけさせるための科目を、四年間にわたつて履修できるようにすべきである。(略)教養・専門という横割りをやめて、くさび型の科目編成にした學年制に改めるべきである。」(6) とする現行改善の考え方が起こるのも必然といわなければならない。つまり、このことは、大學における専門教育が多様であるように、一般教育もまた多様性を帯びたものでなければ

ならないことを意味する。

また、本年二月自民黨文教制度調査會は、「高等教育の改革」案のなかで、「現行の大學は専門教育を強化し、次の教育方法による」としている。

(1) 教養部または教養課程を廢止すること。

① 一般教養のうち人間形成に必要な教科は必修科目又は選擇科目として四年間に履習せしめること。

② 語學、數學等専門課程を履習するための基礎科目は必修とすること。

(2) 大學の講座制を廢止し、科目制に改めること。

單位制を廢止して、年間の授業時數制に改め、學年制にする。講義のはかに演習、實驗實習を強化すること。

(3) 學級擔任制を確立して、學生の教育補導に萬全を期し、全學の教育責任體制を確立すること。

理 由

現行の大學の教養課程は、高校のやき直しで、内容が粗末であつて、學生に對し魅力に乏しい。大學に入學した誇りと喜びを持たせ、若いエネルギーを學問の修得と研究に向けることが必要である。そのため一年生から専門教育を強化する。

さらに本年四月、日本學術會議大學問題特別委員會は、大學問題についての中間報告草案各論において、一般教養課程の問題點をつぎのようにまとめた。

大學の使命は、研究と教育にあることはいふまでもないが、最近における學問の急速なる進歩に伴つて、その研究分野は著しく細分化され、そのことによつて生じた種々の矛盾や缺陷は一つの重大な問題となつてゐる。特に教育の面では、専門的事項にかたより過ぎる結果を招くに至つたことは率直に認めなければならない。戦後の新制大學における一般教育の導入は、この點の

深い反省と結びつけられたものである。従つて、新制大學における教養課程（一般教育を含む）は、専門課程の教育の高度化および特殊化の傾向に對應して、學生の視野をますます廣め、その自主性や創造性を涵養するという方向にむいて、今日、ますますこれを充實する必要がある、これを缺いては大學教育全般の健全な發達は期待し難い。この意味で教養課程の教育と専門課程の教育とは、相互に補充的な關係において、大學教育全體を成立させていると考えられねばならない。

ところが、新制大學のこうした理念は、わが國の傳統的な旧制大學理念の根深い殘存のために容易に理解されず、大學における教養課程の教育は、専門課程のための豫科的位置づけを與えられ、教育課程の教育内容と専門課程の教育内容について學問的に見て、正しい統一が行なわれ難い傾向があるばかりでなく、教養課程の教育と専門課程の教育との間には校舎、設備、研究費などの研究、教育環境、教員、事務職員の数等において著しい格差が生じ、この點からも、また両課程の教育の間に顯著な不均衡を生み出すに至り、これが大學教育全體の健全な發達を妨げている。

まさに、この點にこそ打開されるべき隘路が横たわつていたのであり、この点を度外視しては、一般教育を含む教養課程の問題、従つて、新制大學全體の危機的状況を克服することは、すこぶる困難であるといわねばならない。

このようにみてくると、「大學病理」といつてもよい程の、教養課程をめぐる問題の現象は左表の如く、形式と内容の二面にかかわつているといえるし、また、ここで、問題の現象の因となつた、あるいは逆にそうした現象によつてもたらされた問題的條件はこれを看過することができない。

第一表 教養課程における問題點

形 式 的		内 容 的	
問題 的 現 象		イ、専門課程の教育のための豫科的な位置づけ (高校教育の再現) ロ、自己の専攻科目と無縁な科目の學習	
イ マスプロ講義がもたらす教師・學生の人間關係の稀薄化		<div><div>(例)</div><div>經濟を學ぼうとするのに、與えられ たものは、經濟學の原書ではなくて 文學書</div></div>	
大 學		・ 施設、教授陣の不足	
學 生		・ 受驗教育の弊害とその反映 ・ 動機づけの不明、 語學に対する不滿	

2 教養課程の再檢討と改善

教養課程に對する批判的見解をみてわかるように、教養課程のありかたは再檢討をせまられている。

問題の主流をなすものは、マスプロ講義がもたらす教師・学生の人間関係の稀薄化（第一表）であり、専門課程の教育のための豫科的な位置づけⅡ高校教育の再現Ⅱ（同表）であると思われるし、これらの事象は一般教育に對する不信を生む結果となり、教師・学生の人間関係の斷絶・疎外を招来している（圖1参照）。

圖1. 一般教育に對する不信が生む相互關係（その非効率性）

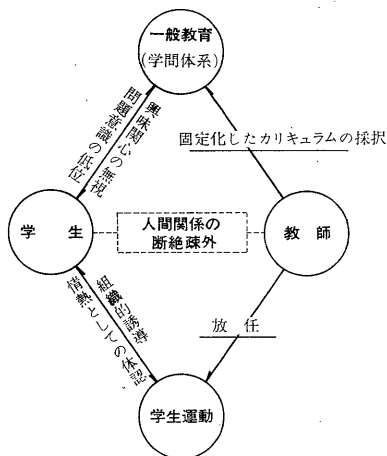


圖2. 和光大學の遞減遞増方式

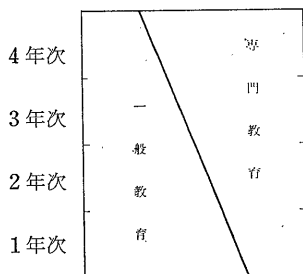


圖1説明Ⅱ固定化したカリキュラム編成のなかで、一般教育に對する学生の興味・関心は無視され、学生の問題意識も低い。そうしたことが、彼等を誤った学生運動に走らせたりし、それに對して教師も積極的な把握を試みようとしなない。

このような問題に應える改善策が「一般教育」の改革として、今日若干の大學で試みられている。例えば形式的な面では立命館大學の小集團教育方式が、内容的な面では和光大學のいわゆる遞減遞増方式（圖2）が注目されよう。

では、一年次から専門教育をはじめ、四年次まで一般教育をおいている。(ただし前者は四年次にかけて次第に増加させ、後者はその逆の形をとらせるといふ、いわゆる通減通増方式によつてゐる)これによつて、一般的にきわめて不評なわが國の大學の一般教育のあり方を抜本的に改善し、とくに一般教育と専門教育との斷絶を除去することにつとめたい。⁽⁷⁾

この、和光の例にみられる専門科目への着目は、大學教育課程に新風を吹きこんだといつてよい程畫期的なものとして高く評價してよいであらう。

二、教養課程におけるプロ・ゼミの意義

1 その本質的理念

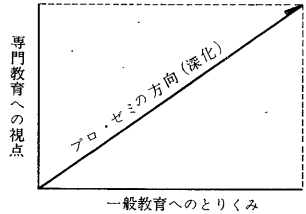
教養課程に専門科目をとり入れようとする動きは、今日の大學教育を現状から脱皮させ、多少でも前向きなものとして改革をはかろうとする關係者の熱意のあらわれであることはいうまでもない。本學社會福祉學科においても、本年度よりテストケースとして一年次プロ・ゼミを実施するに至つた。

「プロ・ゼミという用語はまだ十分に熟しきつていないが、あえて日本語で表現すれば、『前期演習』『準備演習』あるいは『基礎演習』とでもいふべきものである。ラテン語のプレ (pre- 前の、以前の意) を語源にもつプロ・ゼミナール (pro-seminar) の略稱である。⁽⁸⁾」

およそ社會福祉學科においてこのプロ・ゼミの意圖する本質的理念はつぎの二點に集約されようか。

- (一) 専門教育の一過程としての内容を構成することによつて専門領域に對する視點を確立する。
- (二) 社會福祉學の學問的多様性にてらし、一般教育全分野に對して強い關心と問題意識をもち、一般教育そのもの

圖3. プロ・ゼミの方向



のを研究の方法確立のために學習する。いまこれを圖示すると、(一) 専門教育への視点を縦軸に、(二) 一般教育へのとりくみを横軸とする領域において「プロ・ゼミの方向」という形であらわされるであろう(圖3)。

イ、社會福祉學科のカリキュラムにおいて本年度から一回生は「社會福祉學演習」という新しい形式の「プロ・ゼミ」が設けられた。たしかにこれまでの概論(原論・概説)は二、三回生對象の内容であつて一回生に受講させた場合「來年もあるし、専門だから無理しなくても…」と考える學生も出てくる。しかし、社會福祉學における特殊性として、(一) 資本主義體制維持存続のため發生した、(二) 新しい學問分野であり、「社會福祉」の概念規定(定義)が不明確な點や、(三) 理論と實踐の兩輪を必要とするものであり、(四) その内容として、現在開講されて

いる社會學を中心としたすべての社會科學や統計學等をも含む総合的な一般教養科目は専門的分野における基本となる。いままで(高校時代)の平面的學習理論を立體的學習理論にまで高めていくという、根本的姿勢轉回の段階が問題とされるべきであろう。今後の新しいプロ・ゼミに期待することは、以上の諸點を十分考慮にいたうえで、「福祉への基本的姿勢」を示すべき講義や、施設見學、實習においても、概略とその問題點のみの説明に終わらず、具體的な行動や様式の説明にまで、深く細心の配慮がなされるとよいと思うのである。四回生になつても、「こんな施設があつたのか」「こんな所はじめてきた」といった、素朴とはいへあわれないことばが發せられないためにも……。(四回生男子)

ロ、學問とくに科學の特質は知識の合體でなく、系統的に組織化された知識からなる理論の總體であれば、その科學の思考態度もその科學にふさわしいものにならなければいけないであらう。特に社會福祉學自體の科學性が現在論ぜられ、確かなる理論體系を持ち合わせていないだけに、理論の收得から社會福祉の對象問題を考へていくことは淺薄のそしりをまぬがれない。もしその形で學問すれば非常に片寄りのある考へ方となり、それは社會福祉學の分野では決して望ましいものとはいえない。いつばう社會福祉の對象問題、社會問題は他の學問分野より顯著なかたちで我々の眼前に立ちはだかつている。それだけに我々は、これらの問題の質と量において具體的により多く、より細かく知つておくことが、今後大學卒業までに學ぶ社會福祉學の理論によつて、知識の豊富な肉付けと、細かな分析力の養成を期待できる。

學生との結びつきを形式主義にとらわれずに當つていただきたい。大學は高等學校とは異なり、獨特な學問集團で、内容的にはやはり科學的思考方法、研究態度がその中心的位置を占めることは確かであろう。

演習におけるミーティング方式は、共通の興味をもつ學生の自主参加と同時に、學生には豫想もつかぬ進路に話題を近づけ、また常に話題が全員の口からほとばしり出るようなリーダーが必要になつてくる。しかし、この方式が理想的な狀態でなされた時、最良の演習がなされる。それは學生自身が、自分の考え方を仲間と訴えることによつて客觀化することに努め、感情と思考を意識化にまで定着させることができ、話すことによつて相互の人間關係確立にも有効的に役立つ。他者との意見比較により、さらに自分の思考を練り、また知識をより豊富にするであらう。

一年生の演習の課題は如何なるものがよいだろうか。學生の理論養成を重視するより「豊かな知識」に力點をおくべきである。だからまず社會政策、社會保障、社會事業ぐらゐの分類から具體的な對象問題を經驗し、また社會福祉法制の領域として對象問題をとり出し、法的解釈、措置内容を數多く經驗することがよいであらう。やはり何といつても社會福祉學は即現實としての學問であるだけに、抽象化する科學的特徴に少なからず反發しながら、次第にその理念への具體的實証をはかりつつ理想概念を創造していくことが肝要であらう。(四回生男子)

いまここに、プロ・ゼミに關する二つの學生見解を紹介したが、何れも一年次プロ・ゼミを經驗したことのない彼等が、これまでの學習經驗からプロ・ゼミの本質にせまる意見を述べていることは注目に値する。

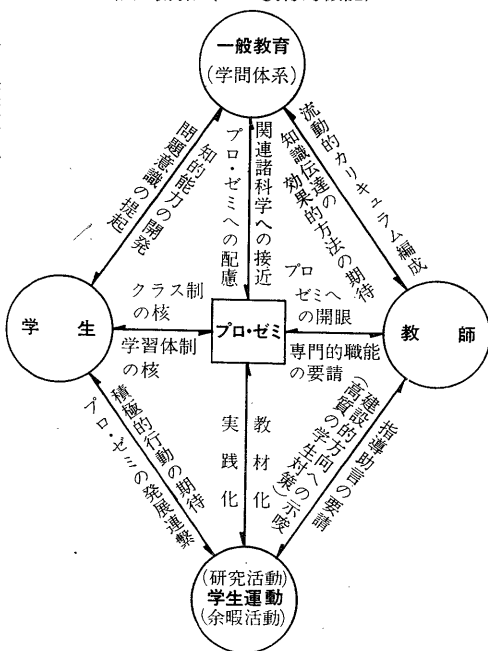
2. 本學におけるプロ・ゼミの位置づけ

プロ・ゼミそのものの形式的意味というものは、大學教育課程全體のなかでは極めて狹隘な領域しか持たないであらう。しかし、

○ このシステムをとり入れるかとり入れないかという質的格差はあまりにも大きいことをまず認識することがたいせつであるし、

○ とり入れるからには、このシステムが果たす教育的機能という面で、「どれ程の密度の濃さをもつか」ま

図4. プロ・ゼミの位置づけとその周辺の相互関係（その教育的機能）



た、「関係する周辺に及ぼす影響の深まりといったものはどうなのか」等を考えないわけにはいかない。ここに、プロ・ゼミが持つ内容的意味の特質がある。

したがって、問題はこのプロ・ゼミが学生（学生運動）、教師、学問体系等どのようなかわりあいを持つものであるのかという位置づけ（そのあり方）を明らかにする必要にせまられるわけである。

このような考え方を模索的に構造化したものが図4であつて、前出の図1がマイナスの因子で結ばれているのに對して、ここではプラスの因子による相互関係が注目される。

圖4説明||これは本來的にいうならば、「プロ・ゼミはかくありたい」と願う理念構造といえるかも知れない。また、プロ・ゼミをめぐる二つの考え方、即ち、「一つは、専門教育の一環としてその基礎固めをする教育活動というとらえ方であり、いま一つは、大學の全教育体系の一環として、その基礎固めをする教育活動というとらえ方」の前者に重點をおきながら、統合的に總括し、構造化したものとして考えてよいかも知れない。

3、社會福祉學科一回生の意識分析

本演習を進めるにあたり、学生の意識を分析把握しておくことは、学生理解とあわせて、指導上の基礎資料を得るうえからも重要であると考え、左の形式に基づいて調査を行なつた。

社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義

一、あなたが社會福祉學科をえらんだ目的はつぎのどれにあたりますか。

一つだけえらんで○をしてください。

イ（ ）社會福祉ということの研究したいと思つて。

ロ（ ）將來、社會福祉のしごとになつてみたいと思つて。

ハ（ ）學校の教師になろうと思つて。

ニ（ ）社會教育のしごとになつてみたいと思つて。

ホ（ ）べつに理由はない。ただなんとなく。

ヘ（ ）その他。〔

二、この學科に入ることゝだれにすすめられましたか。つぎのなかから一つえらんで○をしてください。

イ（ ）家族。

ロ（ ）教師。

ハ（ ）友人。

ニ（ ）自分からすすんで。

ホ（ ）その他。〔

三、(1) あなたは社會福祉學演習で、問題（研究テーマ）にしたいと思うことがありますか。○でこたえなさい。

イ（ ）ある。

ロ（ ）ない。

(2) 「ある」に○をしたひとは、その問題（研究テーマ）をなるべくわかりやすく

書いてください。

「

(3) 「ない」に○をしたひとは、「ない理由」としては、つぎのどれにあたりますか。

」

一つだけえらんで○をしてください。

イ() 入学したばかりで、まだよくわからないから。

ロ() 社會福祉社ということばの意味がよくわからないから。

ハ() ほかの勉強がいそがしくて、そこまで考えるよゆうがないから。

ニ() 問題らしいものが別に見あたらないから。

ホ() その他。」

」

四、「社會福祉」に對して、いまあなたがもっている考え(どんなことからでもよい)疑問、期待、關心など」があつたら、それをつぎに書いてください。

イ

ロ

ハ

ニ

ホ

〔調査期間 四月二八日～五月一〇日〕

〔調査人員 一四九名

〕

調査に先立つて、結果をつぎのように豫測した。

(一)、社會福祉學科が比較的新しい學科であることから、強いてとりあげる程の意識というものは、質的に低位を社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義

圖5 社會福祉學科を選んだ目的

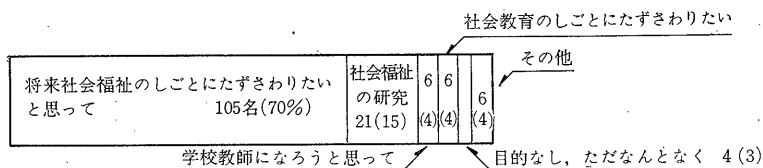
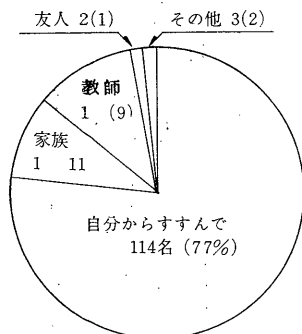


圖6 社會福祉學科をすすめた人



(一) 學科選擇の目的と主體(圖5・6)

兩者とも、一位の比率が高いのにおどろく。學科選擇の目的では、具體的な部門

以下、調査項目を追つて考察をすすめることにする。

が示された。

- (二)、そして、その意識は量的に極めて部分的にしかあらわれてこないのではないだろうかということ。
- (三)、もしかりに意識があつたとしても、それは抽象的なものではないだろうかということ。
- しかし、結果の事實は、つぎに述べるように、豫測に反してかなり質の高い反應

(二) 演習問題の有無とその内容(圖7)

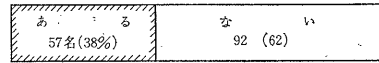
は不明であるにせよ、現業従事希望の多いことを意味する(圖5)。

また、學科の自主決定が意外に多い(圖6)こととあわせ考えたとき、「いちおう、社會福祉學科に對して積極的意欲をもっている」と解してよいであらう。

問題（研究テーマ）有りとする反應は豫想をこえて意外に多い（圖7）。

具體的にどのような問題があげられているか列記してみよう。

圖7 (1)社會福祉學演習で問題にしたいと思うことがらの有無



(8) 現在の老人の保障というものがイギリスや他の國よりも劣っている。したがってこれからの日本の老人保障というものを研究したい。

(9) 日本の農村における貧困問題。

(10) 部落民について。

(11) 他國では社會福祉において保障が徹底しているのに、日本はまだ保障問題が徹底していないので、これはどうなっているのかについて。

(12) 現在、日本の社會福祉は西洋にくらべて非常に劣っていると思う。日本もだれもが安心できるようにもつと社會福祉をよくするように考えたい。

(13) 現代の精神薄弱兒に對する狀況、また精神薄弱兒から精神薄弱者に移つてからの保障の問題。

(14) 貧困のうちの、醫療問題とか、生活保護の面を勉強したい。

(15) 更生福祉について細かくわけ、教護などの面をもつと討議してみたい。それには青少年問題をもつととりあげてほしい。

(1) 同和問題について。差別された部落の人々、その中で育つていく子どもたち、あらゆる角度から見つめてみたい。

(2) 身障者の就職問題。老人問題。

(3) 身障者に對する社會福祉。社會の深部をもつと探究したい。

(4) 肢體不自由兒や盲人等の施設訪問をしておきたい。

(5) 個人の幸福と公の幸福（ひとりひとりが幸せになると同時にみんなが幸せになるにはどうすればよいか）。

(6) 社會福祉をしなければならなかった以前の問題。

(7) 兒童、青少年などの團體生活における協調性などの不足について。スカウト、野外少年團活動などのおしすすめかた。

- (16) 社會的一般の福祉を學びたいと思う（兒童福祉に關連づけて）。
- (17) 佛教と社會福祉との關連および現狀の理解に力を入れたい。
- (18) 現在、實際に行なわれている社會福祉についての問題點および改善されるべき點について。
- (19) 身體障害者の社會適應性について。
- (20) 兒童心理……子どもはどの子どもも平等に生まれてきているはずだ。しかし、その環境によつては、小さい頃からひねくれ
- (21) て成長していく子どももいる。このような子どもは世の中のものなっているが、本来は心のやさしい人間のはずだ。
- (22) 社會福祉における人間的觸れあい。
- (23) 社會に對しての要求、運動の意味。
- (24) 老人福祉の面を勉強したいと思っている（具體的にはどんなことを研究したらよいか自分にもはつきりしませんが……）。
- (25) 現在の兒童福祉や老人福祉のあり方。「施設が少ない」
- (26) 身心障害者の心の狀態や、その人たちが、この社會に求めているものなどを實際に話しあうことによつて研究してみたい。
- (27) 青少年の非行の研究（家庭裁判所に行つて青少年の非行の調査または研究がしたい）。
- (28) 子ども會としての子どもの指導、高校生リーダー（サブ・リーダー）の指導のしかた。また、サブ・リーダーの考えかた。
- (29) 出稼ぎと地域社會。
- (30) 部落差別の問題。
- (31) 過疎地域の老人福祉對策。
- (32) 障害者の心理。
- (33) 現在、青年間で性についての勉強がなすぎるため、孤兒が多くできたり、生命ができながら世の中へ出ないで消えてしまふのはあまりにもかわいそうで、世の中をもつと變える必要があるもので、その方面の勉強をしたい。
- (34) 社會福祉と資本主義社會について——あるトロツキストとの話しあいのなかで出た問題だが、資本主義の社會にあつてこそ成る仕事は社會福祉ではないか、ということにしぼられて、それつきりになつた。
- (35) 青少年の非行問題、被生活保護者などの社會問題に對する實態を知り、將來、自分がなすべき道を解明したい。
- (36) 精薄兒（者）問題の實態と將來性。
- (37) 青少年の養護施設においての生活（この一年、いろいろな本を讀んだり、話を聞いたりして、はつきりした自分の研究テ

ママを決めたいと思つている)。

67 身障者の訓練施設問題とその後の自活について。

68 重症心身障害児のための施設が不足しているので、施設の充實をはかるために何かやりたい。

69 生活保護の地域差をなくすためにはどうしたらいいか。

70 心身障害者について實態および將來。

71 なぜ身障障害者ができるのか、親の責任について。

72 各施設、ともに養護施設に入所している重症心身障害児(者)の實態、問題點、彼らに對する家族のありかた。社會復帰に關する問題點等。

73 父母のない子の指導教化、また今後のありかた。

74 現代日本は總生産世界二位となりながら、どうして老人の生活を見られないのだろうか。

75 現在、社會福祉の仕事にたずさわつてゐる人をまじえて、生活保護の問題について話しあいをもちたい。

76 一般市民の社會福祉への關心(ボランティアについて)。

77 老人福祉(病氣で寝たつきの人のことを)。

78 貧困家庭の、保護を受けてゐる人の收入について。

79 養護施設の實態について(詳細にはいいあらわせない)。

80 社會福祉に必要な場合はいかなる條件に對してか。

81 社會福祉による被保護者の、その生活狀態の變わりかた(その欠點と利點)。

82 被保護者としての條件とその理由。保護のしかた。

83 孤兒の問題について。

84 兒童福祉のなかで、非行になつた者の更生。

85 現在の兒童問題について。特にマスコミ等できかにいわれている反面、現實には、もつと考へなければならぬものが多くあると思う。それについて研究したい。

86 現在の社會福祉行政の狀況を概略的に知りたい。

87 心身障害児問題、精薄兒問題。

についてまだ十分ではないということが指摘できそうである。

つぎに、社會福祉學演習で問題にしたいと思うことがらない理由としては、

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| (1) 入學したばかりでまだよくわからないから。 | 七〇名 (七六%) |
| (2) 社會福祉ということばの意味がよくわからないから。 | 八名 (九%) |
| (3) 問題らしいものが別に見あたらないから。 | 六名 (六・五%) |
| (4) ほかの勉強がいそがしくて、そこまで考えるようがない。 | 二名 (二%) |
| (5) その他 | 六名 (六・五%) |

計 九二名 (一〇〇%)

。社會福祉ということがあまりにも重大な仕事で、どこから先にやっていけばよいか、とまどつてゐるから。

。問題にしなければならぬことが多くあつて、自分はどれにしようかという具體的なことがらについて決めていない (兒童福祉をいちおう……)。

。特定のテーマをつくらなくても、どんなことでもテーマになると思う。

。兒童福祉のはばの廣きにとまどつてゐる。養護施設で働くということだけであるから、テーマとして何をするかといえる段階ではない。

。現在の學習の構成人員では何かまとまりができず、普通の講義とかわらなくなるので演習自體に疑問。

。今後、勉學する故にテーマを出したいと思う。(註「勉學する故に」とあるのは、「勉學しながら」という意に解してよいであらう)。

。等があげられている。

ここで留意しなければならないことは、問題がないからといつて、即、低意識とみるのは早計ではないかということである。それは、時期的にみても「入學したばかりでまだよくわからないから」というのは當然だとする考えか

第2表 「社會福祉」に對して現在持つてゐる考え

(視 點) (類 別) (内 容) (實數と比率)

問題の
類型
三六(一〇〇)

社會福祉の現状
に視點をおいた
もの
一三(七)

學習を進めてい
くことに視點を
おいたもの
六(三)

將來(卒業後)
の構想に視點を
おいたもの
二六(一〇)

一 一般 的 概 念
自己が持つてゐるもの
社會に對して目を向けたもの

疑問・問題 對 行 政
誤 課 題 把 握 認 知
精薄兒をどのように教育し、就職させればよいのか。
ボランティア活動に對する否定。
ヨーロッパ諸國の福祉政策とわが國のそれとのちがひ。

比 較 (考 察)

期 待
日本の社會福祉のレベル・アップに期待する

學 習 の 對 象
養護施設入所兒(者)の實態。

學 習 態 度
積 極 的
これから勉強していく福祉に對する勉強の傾向が疑問。

學 習 の 方 法
時間の許す限り、現場でじかに接したい。

學 習 の 環 境
社會から期待されている學科であるから設備等をより充實させ、發展させたい。

問 題 理 解 度 の 淺 薄
入學したばかりなので「福祉」ということははつきりわからない。

能 動 的 (不 安)
福祉を學び家族調査官になり、少しでも非行をなくしたい。

受 動 的 (不 安)
自分は社會福祉という仕事に向いてゐるのだろうか。

二四(三)
四(四)
一九(二)
四〇(三)
二六(五)
五(三)
七(四)
一五(八)

一五(五)
七(一)
一八(〇)
八(三)
七(一)
六(〇)
二(四)
一五(六)

※ 數字は實數、() は比率

たが成り立つからである。

この考えかたに立てば、むしろ「その他」にみられる「反應」の中に、眞實の聲が潜在しているようにも思われる。ただここで強調したいことは、特に小學校から高校までの教育において、彼等が社會科學的認識による社會觀を自己の主體の中に、確立しなかつたことの非、いいかえれば、確立されなかつた社會科教育の非こそ責められるべきではないかということである。

(二) 「社會福祉」に對して持つ現在の考え

この項目では、つとめて抵抗や條件規制をなくして、疑問、期待、關心などを自由に書かせたので、「反應の實數」も多く、しかも廣い領域にわたつた(第2表)。

ここでは、社會福祉の現狀に對する「關心」や「疑問・問題」等の多いことが注目されるし、同じく「期待」も見逃がせない。

また、學習を進めるうえからは、學習の對象を明確にとらえているのはよいとして、「消極的な學習態度」のあることにも着目しておきたい。さらに、將來の構想に視點をおいた場合、受動的な、不安感をもっていることも目を惹く。

三、プロ・ゼミの展開過程

年度當初、本演習はつぎのようなねらいを意圖した。

「この演習はプロ・ゼミナール (proseminar) であり、社會福祉學科における専門教育の一環として、その基礎

固めを行なうことが目的である。討論・見學・現業に従事する社會事業家との懇談・課題發表・輪讀などを、できるだけくり返して、社會福祉をめぐる諸問題の理論的な認識を高めたい。

各ゼミ共通のテキストは二冊（・渡邊華子著『福祉國家』・イギリスとわたくしたち―日本勞働協會JIL文庫・丸尾直美著『福祉國家の話』日本經濟新聞社・日經文庫）であるが、このほか、各ゼミごとに數冊のサブ・テキストを演習中に選定することとした。

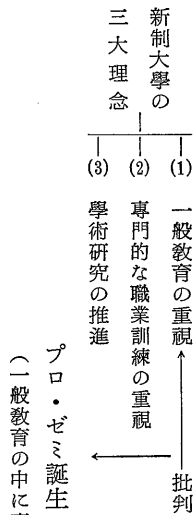
一回生約一六〇名、四クラスのゼミ展開過程はつぎのとおりである。（第六次まで掲載）

第一次

プロ・ゼミの意義

1、プロ・ゼミの意義

戦後大學教育に批判的な方式

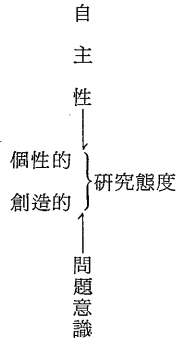


2、演習の性格―クラスの人間關係の調整をはかりながら（Rapport の必要）（環境づくり）

3、中心テーマ―福祉國家論

4、演習の概要（註、前述の「ねらい」参照）

5、學習態度のあり方

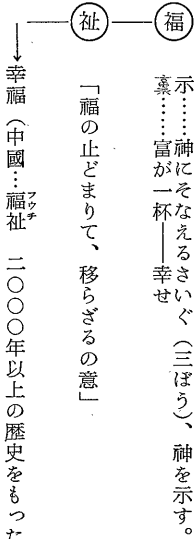


第二次
 福祉、福祉國家の語義・考え方

1、福祉國家とは

- (1) 憲法における「福祉」の所在
 公共の福祉（一二、一三、二二、二九条）
 （社會福祉二五條の二）
 ——公衆衛生・社會保障とならん——
- (2) 社會福祉と社會事業の相違・新旧
 Social Work……一九〇四年
 Social Welfare……一八〇〇年代
- (3) 明治天皇と福祉——「朕とともに福祉を享けよ」
 明・一〇・上野公園行幸「東京府民に賜える勅語」

2、福祉の語義、語源



社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義

「福祉國家」なる語はイギリスで誕生 現代的意義 初期のそれ おもむきの異なり

Common of Weal^① 一六〜一七世紀

「公共の福祉」に近い

① 一般の福祉 general, public

② 富 (wealth, prosper, tlapp)

wohl, fahrt, staat... 一九世紀ドイツ語

福祉 健康 幸福をか

安寧 ける事業

welfare

悲慘な國家から抜けきるために

期待を集めて生まれた

對比 power state (權力國家)

warfare state (戰爭國家)

第三次

ビバリッジプラン

1、ビバリッジの経歴

2、社會保障法に關する一連の立法措置

(一) Ministry to National Insurance Act 一九四四年十一月

國民保險省設置法

(二) Family Allowance Act 一九四五年六月

家族手当法

(三) National Insurance (Industrial Injuries) Act 一九四五年七月

國民保險(業務災害)法

(四) National Health Service Act 一九四六年十一月

國民保健事業法

(五) National Insurance Act 一九四六年八月

國民保險法(年金、一時金等)

(六) National Assistance Act 一九四八年五月

國家扶助法

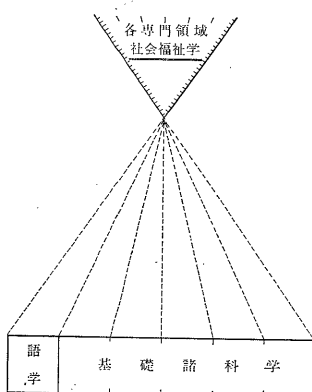
(七) Childrens Act 一九四八年五月

兒童法

第四次

社會福祉學への接近、ピグーの命題

圖 9. 社會福祉學への接近



社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義

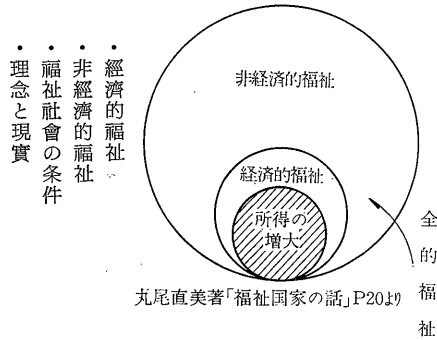
1、社會福祉學への接近(方法)——圖9——

社會福祉へのあこがれ——社會福祉學の探究——社會主義へ
↓
體制順應型
↓
放棄

2、ピグーの命題——圖10——

經濟的福祉の客觀的對應物は實質國民所得であると考え、國民所得の動きで社會の福祉の水準を比較できると考えた。他の條件が等しいとき、實質國民所得の増大、平等化、安定化は一般に福祉を増進させる。

図10. 社會の福祉と經濟的福祉



丸尾直美著「福祉國家の話」P20より

第五次 福祉國家の源流（救貧法）

1、救貧法（イギリス）はほぼ一四世紀に成立

Public Nuisance	
新救貧法期	旧救貧法期
一三三八年	一三三八年 浮浪者豫防に關する法律
一五三〇年	一五三〇年 乞食取締りに關する法律
一五六三年	一五六三年 貧民係に關する法律
一六〇一年	一六〇一年 エリザベス四三年法
一六二二年	一六二二年 貧民移動制限法
一七二三年	一七二三年 勞役場 (Work House Test) 法
一七九五年	一七九五年 Speenhamland 法
一八三四年	一八三四年 改正救貧法
一九〇五年	一九〇五年 失業勞働者法
一九〇九年	一九〇九年 (職業紹介所法)
一九四八年	一九四八年

※ 改正救貧法の三原則

(一) The Principle of Less Eligibility 最下層の自立勞働者を下まわる救貧

(二) Work House Test の復活 一七二三年法の復活

(三) The Principle of National Uniformity 中央官廳による給付額の全國的畫一化

2、工場法の流れ

婦人、年少勞働力の無制限活用（原生的勞働關係）

勞働力の再生産と維持



第六次

福祉國家の源流（社會政策）

社會政策
←
勞働法

1、社會政策

Sozial Politik（ドイツで生まれた學）

Social Policy（アメリカ的譯：意味に違いを生じる）

・「S・Pとは資本主義制度の恒久持續性を前提として、勞働者を賃金勞働者として順當に、生産・再生産するために勞働條件の基本問題をめぐる勞資闘争の課題を社會目的にとつて合目的に處理しようとする國家の政策である（孝橋正一）。」

主體——國家

客體（對象）——賃金勞働者

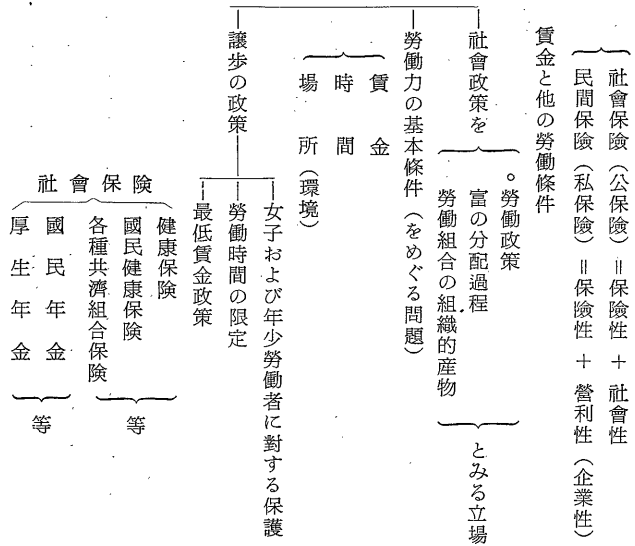
・社會政策における讓歩（アメ）と彈壓（ムチ）

「福祉國家のもう一つ傍系的な源流は、ビスマルク宰相下のドイツ社會保險制度である。一八八三年の疾病保險、一八八四年の災害保險、一八八九年の養老および廢疾保險は、いずれも世界で最初に法制化されたもので、今日の社會保障の先驅といえる。しかし、それは一八七八年の社會主義者取締法という鞭との引きかえに與えられた餌であつたことを忘れてはならない。『社會民主主義的暴擧を鎮壓するだけではじゅうぶんではない。進んで勞働者の福祉をはかるべきである』とのカイザーの詔勅（一八八一年）は、社會主義彈壓と福祉政策との關係を端的に示唆している。」

2、社會保險

・保險とは（數理的合理性↓社會的公平、社會正義）

社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義



註、ここにあげた展開過程以降、本演習で使用了た主なる資料を参考までにつぎに示す。

資料① 國 民 所 得

(10億圓)

年	分配國民所得		家 計 消 費 支 出						1人當 り國民 所得 (ドル)
	總 數	雇 用 者 所 得	總 額	飲 食 費	被 服	光 熱	住 居	雜 費	
30	7,113	3,527	5,435	2,825	745	235	604	1,027	222
31	7,855	4,004	5,904	2,984	834	246	706	1,135	243
32	9,210	4,585	6,476	3,203	922	267	797	1,288	282
33	9,561	4,991	6,733	3,371	939	268	925	1,431	290
34	10,585	5,540	7,579	3,546	996	276	1,141	1,621	318
35	12,817	6,435	8,648	3,807	1,208	320	1,388	1,924	382
36	15,156	7,625	9,896	4,189	1,380	365	1,687	2,275	448
37	17,348	9,091	11,515	4,718	1,616	421	1,920	2,841	508
38	19,900	10,682	13,502	5,413	1,823	477	2,310	3,479	577
39	22,752	12,349	15,599	6,048	2,045	526	2,832	4,169	653
40	25,462	14,333	17,537	6,782	2,209	598	3,127	4,822	722
41	29,188	16,459	19,878	7,537	2,419	663	3,625	5,635	820
42	34,543	19,026	22,598	8,406	2,715	773	4,231	6,514	961
43	40,393	22,235	26,013	9,402	3,114	812	4,917	7,768	1,110

經濟企畫廳「國民所得統計」

43年は速報値

資料② 家 計

(人口5万人以上の都市勤勞者世帯)

(月額、圓)

年	世 人 帯 員	實 收 入	可處分 得 所	消 費 支 出					
				總 額	食 料	住 居	光 熱	被 服	雜 費
30	4.71	29,169	25,896	23,513	10,465	1,443	1,185	2,861	7,568
31	4.47	30,776	27,464	24,231	10,399	1,748	1,174	3,050	7,860
32	4.46	32,664	29,810	26,092	10,937	1,993	1,278	3,306	8,578
33	4.46	34,663	31,824	27,799	11,444	2,489	1,286	3,353	9,227
34	4.41	36,873	34,122	29,375	11,686	2,901	1,323	35,23	9,942
35	4.38	40,895	37,708	32,093	12,440	3,139	1,552	3,934	11,028
36	4.22	45,134	41,807	34,896	13,170	3,746	1,679	4,455	11,846
37	4.17	50,817	46,930	39,339	14,454	4,326	1,852	5,090	13,617
38	4.17	56,745	52,116	43,927	15,988	4,726	1,975	5,469	15,769
39	4.13	63,396	58,104	48,324	17,265	5,114	2,129	5,719	18,097
40	4.11	68,419	62,340	51,859	18,801	5,455	2,327	5,874	19,402
41	4.05	75,372	68,468	56,515	19,837	6,054	2,494	6,198	21,932
42	4.01	82,650	75,429	61,918	21,380	7,008	2,676	6,733	24,120
43	3.94	90,132	82,601	67,402	22,734	8,321	2,791	7,286	26,270

總理府統計局「家計調査」

資料③ 1世帯あたりの消費支出の變化

年	合 計	食 料	住 居	光 熱	被 服	雜 費	
圓	30	23,513	10,463	1,434	1,185	2,861	7,568
	35	32,093	12,440	3,139	1,552	3,934	11,028
	40	51,859	18,801	5,455	2,327	5,874	19,402
	41	56,515	19,837	6,054	2,494	6,198	21,932
	42	61,918	21,380	7,008	2,676	6,733	24,120
	43	67,312	22,711	8,291	2,792	7,267	26,252
%	30	100.0	44.5	6.1	5.0	12.2	32.2
	35	100.0	38.8	9.8	4.8	12.2	34.4
	40	100.0	36.3	10.5	4.5	11.3	37.4
	41	100.0	35.1	10.7	4.4	11.0	38.8
	42	100.0	34.5	11.3	4.3	10.9	39.0
	43	100.0	33.8	12.3	4.1	10.8	39.0

日本國勢圖會1969

人口5萬以上の都市勤勞者世帯の各年1か月平均消費支出。

資料④ 家 計 (農家世帯)

(月額, 圓)

年 度	世 人 帯 員	消 費 支 出					
		總 額	食 料	住 居	光 熱	被 服	雜 費
30	6.27	24,858	12,275	1,833	1,233	2,842	6,675
31	6.23	25,475	12,483	1,917	1,250	2,883	6,942
32	5.93	25,425	12,175	1,825	1,292	2,933	7,200
33	5.86	25,817	12,225	1,950	1,233	2,925	7,483
34	5.80	27,342	12,400	2,550	1,283	3,117	7,992
35	5.70	29,542	12,717	3,100	1,433	3,467	8,825
36	5.64	33,192	13,592	4,000	1,600	3,908	10,092
37	5.52	36,733	14,492	4,392	1,842	4,325	11,682
38	5.42	41,075	15,842	4,908	2,008	4,742	13,575
39	5.31	46,259	17,608	5,717	2,200	5,117	15,617
40	5.29	52,067	19,350	6,392	2,475	5,767	18,083
41	5.14	57,433	20,950	7,075	2,725	6,200	20,483
42	5.13	66,309	23,567	7,400	3,025	7,217	25,100
43	5.06	72,700	25,275	8,308	3,200	7,742	28,175

農林省「農家經濟調査」

43年は概計

資料⑤ 社会保障の国際比較 (1963年)

(對國民所得比 單位：%)

社會福祉學科における一年次プロ・ゼミの意義

		社會 保險	家族 手當	公務員 軍 人	公衆 保健	公的 扶助	戦争さ せい者	形 態 別		計
								醫療	現金	
歐洲大陸諸國	ス イ ス	4.85	0.08	0.93	1.69	1.23	—	—	—	8.77
	フ ラ ン ス	9.07	4.11	3.61	—	1.04	1.36	4.54	14.68	19.22
	西 ド イ ツ	13.33	0.52	3.33	0.16	1.24	1.35	3.90	16.02	19.92
	ベ ル ギ ー	9.70	3.01	3.17	0.37	0.51	0.75	2.84	14.67	17.51
	オ ラ ン ダ	10.33	2.21	2.06	—	0.66	0.11	2.32	13.05	15.37
	オーストリア	12.71	2.85	3.28	0.10	0.59	0.94	3.66	16.80	20.47
北 歐	ア イ タ リ	9.33	2.33	1.95	0.12	0.24	1.05	3.25	11.78	15.03
	ス エ ー デ ン	7.77	1.34	0.82	3.48	1.78	0.02	4.33	10.88	15.21
	デ ン マ ー ク	7.34	1.53	1.14	3.04	1.75	0.04	4.45	10.38	14.83
	ノ ル ウ ェ ー	8.26	0.82	1.85	1.85	0.79	0.12	4.22	9.48	13.70
	フィンランド	3.81	1.85	1.39	2.64	1.45	0.74	2.74	9.14	11.88
	フィンランド	3.81	1.85	1.39	2.64	1.45	0.74	2.74	9.14	11.88
英連邦	オーストラリア	5.36	0.92	0.60	1.21	0.23	1.40			9.72
	ニュージーランド	9.48	—	0.90	2.38	0.06	1.02	4.33	9.51	13.84
	イ ギ リ ス	5.99	0.58	1.09	4.13	1.56	0.44	4.11	9.67	13.78
	ア メ リ カ	4.35	—	0.72	0.50	0.97	1.08	1.03	6.58	7.61
	カ ナ ダ	4.20	1.74	0.47	3.79	1.76	1.01	4.07	8.90	12.97
	カ ナ ダ	4.20	1.74	0.47	3.79	1.76	1.01	4.07	8.90	12.97
一所得段階別 人當り國民	1,500 ドル ～	5.29	0.79	0.74	2.37	1.44	0.53			11.14
	1,000 ～ 1,500	8.00	1.60	2.00	1.59	0.83	0.69			14.70
	500 ～ 1,000	6.07	1.25	1.41	0.99	0.48	0.35			10.51
	300 ～ 500	3.09	0.48	1.54	0.99	0.15	0.60			6.26
	～ 300	0.48	0.15	0.59	0.95	0.12	0.01			2.10
日 本	1 9 6 3 (38)年	3.02	—	0.78	0.36	0.64	0.63	2.86		5.45
	6 4 (39)	3.27	—	0.83	0.36	0.67	0.66	3.14	2.64	5.78
	6 5 (40)	3.58	—	0.86	0.38	0.71	0.64	3.52	2.65	5.78
	6 6 (41)	3.61	—	0.85	0.38	0.71	0.61	3.56	2.61	6.17

經濟企畫廳「昭和44年度次經濟報告」

(經濟白書)

1. ILO "The Cost of Social Security 1960, 1963" 國連 "Yearbook of National Accounts 1966" 厚生省「厚生白書」1968, 經濟企畫廳「國民所得統計」により作成
2. 1人當り國民所得段階別の社會保障給付／國民所得比は、當該國民所得段階各國の數値の單純平均。

資料⑥ 一般会計社会保障関係費の推移

(単位：億圓，%)

	30年度		35		40		44		平均伸び率		
	%		%		%		%		31～ 35	36～ 40	41～ 44
生活保護費	335	32.1	446	24.7	1,059	20.4	1,830	19.3	5.9	18.9	14.7
社会福祉費	90	8.6	132	7.3	432	8.3	855	9.3	8.0	26.8	19.6
社会保険費	124	11.9	649	36.0	2,095	40.4	4,677	49.4	49.8	26.8	22.2
うち医療関係	62	5.9	258	14.3	1,231	23.8	2,994	31.6	33.0	36.1	24.9
うち年金関係	14	1.3	266	14.7	606	11.7	1,211	12.8	80.2	17.9	18.9
保健衛生対策費	209	20.0	269	14.9	930	17.9	1,220	12.9	5.2	28.2	7.0
失業対策費	285	27.3	307	17.0	667	12.9	859	9.1	1.5	16.8	6.5
社会保障関係費 合計A	1,043	100.0	1,803	100.0	5,183	100.0	9,470	100.0	11.6	23.5	16.3
A/C		10.5		11.5		14.2		14.1			
恩給関係費 B	895		1,318		1,693		2,677		8.0	5.1	12.1
B/C		9.0		8.4		4.6		4.0			
一般会計予算 C	9,915		15,697		36,581		67,395		9.6	18.4	16.5

経済企画廳「44年度次経済報告」，大蔵省資料による。当初予算ベース。

社会保険費のうち，医療，年金関係は事務費を含まない。

資料⑦ 生活上の不満

(単位：%)

	38年	39	40	41	42
住宅問題	13	14	17	13	19
家具・道具類	2	2	2	1	3
衣類	4	3	3	1	2
食生活	7	3	4	4	4
経済問題(低収入・物價高)	35	40	42	42	39
公共的施設	8	9	10	8	10
その他の不満(政治的・精神的)	9	11	11	13	16
なし，不明	42	37	33	34	33

總理府広報室「國民生活に關する世論調査」による。

四、今後の課題

まず率直に反省したいことは、先に述べたような、演習のねらいに即した理想どおりの展開が望めなかつたことである（もつとも本稿が中間報告という、制約を受けたことにもよるが……）。

これは、社會福祉學の廣範な基礎領域の基本的理解の必要とあいまつて、中心テーマ「福祉國家論」を理解していくうえに、その主軸をなす、混合經濟體制を、經濟學的知識を基礎として把握しなければならなかつたし、そのため勢い効率的な講義形態をとらざるを得なかつたものである（いわば、演習のための基本的事項の整理とでもいえる）。

しかし、こうしたプロセスの中にあつても、第四次の展開にもとりあげたように、社會福祉學への接近方法——社會福祉學の成立と基礎的諸科學との關連、必然的に語學、基礎的諸科學に對する真摯なとりくみの必要性等、いわゆる知的能力の自己開發を意圖した、學習の基本的態度に關する認識をはじめ、その他、隨時社會科學入門書等の紹介や、社會福祉の今日的諸問題（マス・コミによつて傳達される）、さらにはまた、今日の大學問題、社會福祉學科學生のあり方、役割り等にも觸れるなど、基礎的であり多面的な社會福祉觀の確立につとめたつもりである。

そうした意味で、この方式は、梅根悟氏（和光大學學長）がつぎのように指摘するプロ・ゼミのあり方に若干の接近を示すことになるかも知れない。

「同じプロゼミにも教養ゼミと専門プロゼミとの區別があるということは、はつきりと意識しておくべきでしょう。この二つはどちらがいい、どちらがほんとうのプロゼミだ、といったものではなくて、實は兩方とも必要なのだろうと、私は考えております。⁽¹⁰⁾」

また、

1、「唯一つの専門科目だから落としたくない」とする學生の聲が反映するように、常に八〇〇九〇%臺の高い出席率を持続してきたこと。

2 演習のクラスが中心となつて各種の活動（親睦會、演習後のミーティング、研究誌發行等）が行なわれ、クラスに「まとまり」の雰圍氣が醸成されつつあること。

3 施設参加等ボランティア活動における問題點、學生生活上の諸問題、自主學習を進めていくうえでの各種障害、將來の進路決定等について指導助言の要請が教師に對して積極的、個別的になされていること。

等は、「演習の組織と内容がもたらした好ましき所産」として高く評價し、今後なおその高質化を目ざして努力していきたい。

さらにまた、既にふれたように、學生自身による知的能力開發を進めるには「やはり教師と學生との『人間的觸れ合い』による嚴しい訓練と個人的指導が必要である。⁽¹¹⁾」ことを、教師も學生もともに認識しなければならない。そして、演習を効果的にする基本條件の一つであるクラス構成人員については、「授業は少人数でなければならず、決してマス・プロであつてはならない。こうして『一般教育』の目標を追求するには、少人数教育が有効だ。⁽¹²⁾」とする決定的かつ核心的な指摘についても、それが現實のシステムでは實現困難であるとすれば、制度の改善をはかるいつばうでその代替策を具體的に創造していく努力が肝要であらう。

もとより、わずか一年間の、それも極めて限られた演習時數の中で、當初のねらいが十全に達成されるとは思わないが、この演習を足場とし、舞臺として、學生自身が自己の持つ問題意識をより高めることを期待したい。

それは、社會福祉に對するひたむきな若い情熱をモーメントに、問題の所在ならびに問題と自己とのかわりあいを明確化し、鋭い感覺と冷靜な判斷によつて精力的な資料収集を行ない、社會科學的な思考を働かせ、一つの結論を導き出すという實證的な研究手法を経験することによつて可能であらうかと思われる。

○

○

このプロ・ゼミは上田教授と共同で擔當してきたものである。したがつて本稿をまとめるにあたつては上田教授から格別のご指導をいただいたことを付記する。

註

- (1) 講座、「日本の將來」6 教育改革の課題八一九六九年・潮出版社▽一二三ページ
- (2) 前掲書一二四ページ
- (3) 吉田茂著「日本を決定した百年」八一九六七年・日本經濟新聞社▽一〇七一―一二二ページ
- (4) 講座「日本の將來」・前掲書一五〇ページ
- (5) 高橋義孝他著「私の大學再建案」八一九六九年・新潮社▽二〇九ページ
- (6) 高坂正顯・吉田富三編「大學教育改革のための提案二〇條」八一九六九年・創文社▽一六六ページ
- (7) 財團法人學徒援護會「採用のための大學案内」⁸⁸二五九ページ
- (8) 大澤勝著「日本の私立大學」八一九六九年・青木書店▽二六六ページ
- (9) 同 右
- (10) 福祉大學評論編集委員會編「福祉大學評論」第四號八一九六八年▽二〇ページ
- (11) 内田忠夫・衛藤藩吉編著「新しい大學像をもとめて」八一九六九年・日本評論社▽一四六―七ページ
- (12) 内田忠夫・衛藤藩吉・前掲書一四七ページ

